

全国の整備相談所に寄せられた整備相談事例 Vol. 46

ケースその1

【内容】車検1ヶ月後にエンジン不調となり自宅前の坂道を登らなくなった

・車名：乗用車 　・登録年月：平成18年 　・走行距離：260,000km

相談者は、ユーザーの娘。高齢（70歳台）の実父に代わり電話された。平成25年1月末日、車検切れのため、ディーラーW店で車検を受けた。車検に際し新車に乗り替える案もあったが、サービス担当者の「あと2年乗れます」の言葉により、車検を受けた（費用は20万円超）。2月7日、父が仕事で三重県を走行中にエンジン部不調を感じ、娘に電話連絡があった。結局、2月9日に帰宅したが、2月10日には自宅前の坂道を登らなくなった。ディーラーW店から、「修理に26万円かかる」、「運が悪かった」、「お宅にも落ち度はある」、「次はエンジン系統にも来るでしょう」と言わされた。更に、「直さないなら車を引き取って欲しい」とも言わされた。「そういう態度は如何なものか」と相談者は憤慨している。車検前に故障の恐れを説明してくれていたら、車検受けずに新車を購入したこと。

【対応】

車検でATのオイル量や漏れ、異音などを確認するが、CVT内の機械的なものは分からぬし、あと2年乗れると云ったとの主張については店側の言い分を聞かないと分からぬことを説明した。ディーラー本社の課長と連絡を取り、話し合った。本社としては、保険も含め調整しW店と確認しながら方向付けをし、再度連絡くれるとの見解。3月20日、本社課長から連絡あり。「W店と話し合ったが、返却された代車のフロントガラスにひび割れあり困っている」、「ユーザーが故障車を修理するのなら、多少の費用を負担する用意はある」、これが結論とのこと。その後ユーザーと連絡が取れなかつたが、3月27日、ユーザーに連絡。内容を報告し了解された。（この1週間に、本件にて運輸支局専門官が当該事業場へ確認のため立ち入っている）

タイミングベルト整備作業時の注意事項

タイミングベルトの脱着を伴う整備作業を行う際に、緩めたタイミングベルトテンショナープーリーを他部品へ強く干渉させ、テンショナープーリーが変形してしまう事例があることから、タイミングベルトの整備作業時の注意事項をご案内致します。

■ 対象 エンジン型式 3G83

■ 注意事項

会社名	通称名	車両型式	エンジン型式
三菱	ミニカピスタチオ	H22A, H22V, H27A, H27V, H32A, H32V, H37A, H37V, H42A, H42V, H47A, H47V	3G83
	ミニカトッポ	H32A, H32V, H37V	
	トッポBJ	H42A, H42V, H47A, H47V	
	トッポ	H82A	
	eKワゴン	H81W, H82W	
日産	ミニキャブ	U41T, U41V, U42T, U42V, U61T, U61V, U61W, U62T, U62V, U62W	3G83
	オッティー	H91W, H92W	
	クリッパー	U71T, U71V, U71W, U72T, U72V, U72W	

タイミングベルト取り外し作業において、テンショナーを緩め側（ウォーターポンプ側）一杯に寄せてボルトで固定する際に、テンショナープーリーをウォーターポンプと強く干渉させる事でテンショナープーリーが変形する可能性があります。

つきましては、以下事項についてご注意の上、作業をお願い致します。

- ・ タイミングベルトを取り外し作業において、テンショナーを緩め側（ウォーターポンプ側）一杯に寄せるために、ドライバー等でテンショナーを押す際、又はテンショナーを緩め位置で固定する際、テンショナープーリーをウォーターポンプに強く干渉させないように注意して下さい。
- ・ タイミングベルトの張力セット後、クランクシャフトを1～2回転させてテンショナープーリーからのすれ音などの異音なくスムーズに回転することを確認して下さい。
- ・ タイミングベルトに適正な張りがあることを確認して下さい。

